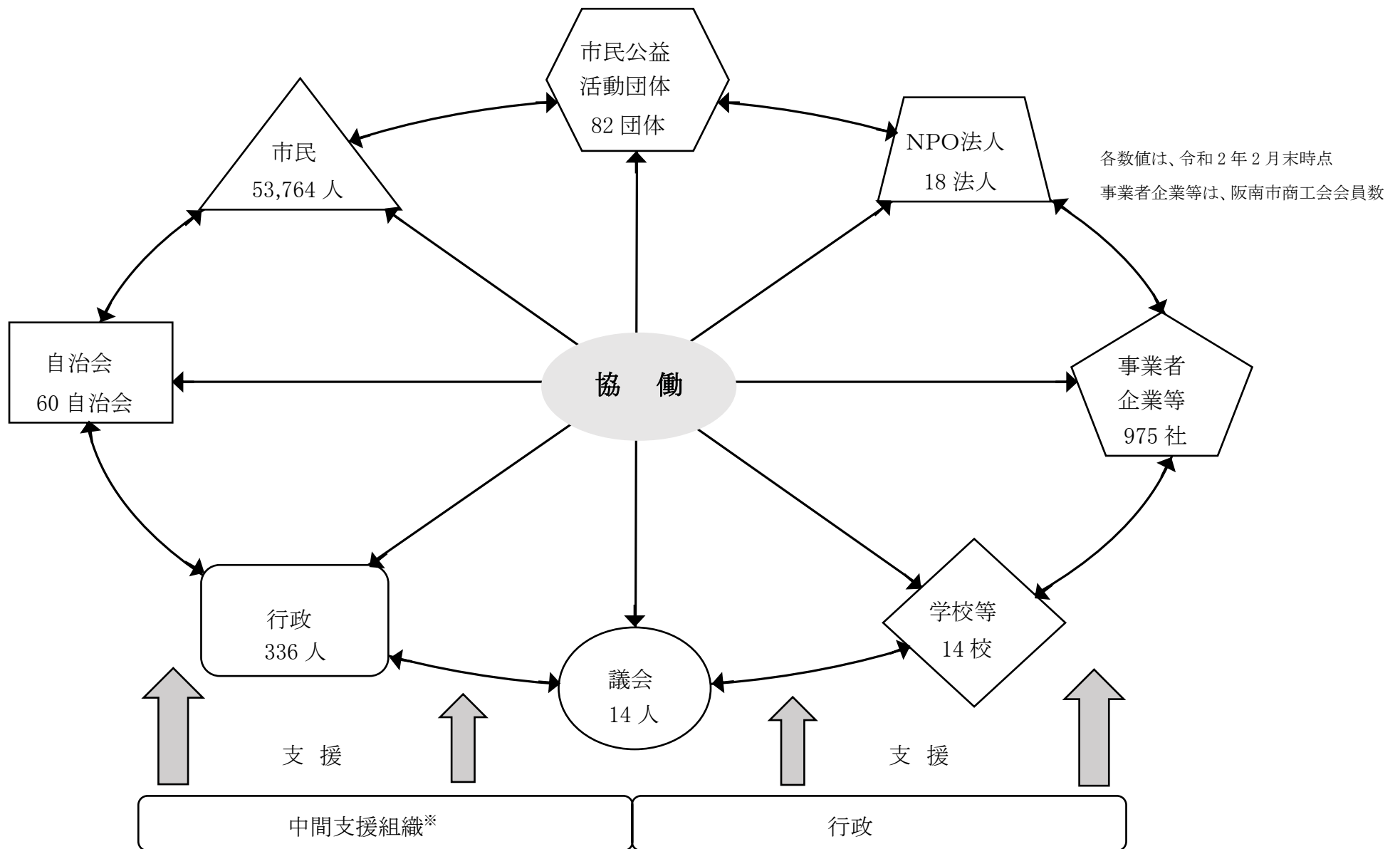


推進委員会後の再検討項目

再検討項目	第3章 協働の原則
部会での議論	<ul style="list-style-type: none"> • キャッチコピーを先に表記することで、読んだ人に柔らかい印象を与え、読みやすいのでは。
推進委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> • 学校等でも習うのは先に単語が表記され後ろに説明という形式だったため、その方が見慣れているのでは。 • 先に端的な語句を表記し、後ろに説明文がある方が、見やすい。
他市の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 先に〇〇の原則や単語を表記し、その後に説明文を表記している自治体のみ。(事務局調べ) • 箇条書きや原則毎に四角で囲むなど、レイアウトも様々。
部会の検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報は積極的に発信していこう！(情報共有) 活動に関する情報や困りごと、やりたいことなどまちづくりに関する情報を発信して広く共有しましょう。 ◆ 同じ視線で、話し合おう！(対等な関係) 協働を行っていく上で、必ず同じ立場で意見が言える関係をつくりましょう。 ◆ 長所、短所を認め合おう！(相互理解) 誰にでも得意なことと苦手なことがあることを知ましょう。 ◆ 困りごとは、助け合おう！(相互補完) 困っていることや求めていることを共有し、多様な解決策を生み出しましょう。 ◆ 誰かに依存することなく、主体的に行動しよう！(自主性・自立性の尊重) 相手ばかりを頼ることなく自分で考え、取り組みについての意見をどんどん交換しましょう。 ◆ 互いにルールを守り、行動しよう！(自律性の尊重) 自分たちのルールだけでなく、相手のルールも尊重しましょう。
推進委員会の意見を踏まえた修正(案)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報共有 《情報は積極的に発信していこう！》 活動に関する情報や困りごと、やりたいことなどまちづくりに関する情報を発信して広く共有しましょう。 ◆ 対等な関係 《同じ視線で、話し合おう！》 協働を行っていく上で、必ず同じ立場で意見が言える関係をつくりましょう。 ◆ 相互理解 《長所、短所を認め合おう！》 誰にでも得意なことと苦手なことがあることを知ましょう。 ◆ 相互補完 《困りごとは、助け合おう！》 困っていることや求めていることを共有し、多様な解決策を生み出しましょう。 ◆ 自主性・自立性の尊重 《誰かに依存することなく、主体的に行動しよう！》 相手ばかりに頼ることなく自分で考え、取り組みについての意見をどんどん交換しましょう。 ◆ 自律性の尊重 《互いにルールを守り、行動しよう！》 自分たちのルールだけでなく、相手のルールも尊重しましょう。

再検討項目	第3章 協働の担い手、パートナー 協働のカタチ
部会での議論	・自治基本条例に基づく指針であるため、市民の定義は条例に合わせておく。
推進委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の定義は、協働の担い手としてどのような市民に期待が寄せられているか。 ・市民公益活動団体やNPO 法人の具体例を挙げた方が分かりやすい。 ・学校の中には、幼稚園も含まれていないのであれば、その説明が必要。 ・警察や消防などは表記されないのか。 ・実際の数値と差が生じるため、表記しない方が良いかもしれない。
他市の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公益活動団体やNPO 法人の具体例を挙げている市町村は無し。 ・市民の定義を行っている市町村はすべて在住の他、在勤、在学を含む表記。(定義の記載の無い市町村もあり) ・『行政』○○市及び○○市の地域社会に関する公共機関と表記多数。 ・『学校等』行政の中に包含するような記載もあり。
部会の検討結果	<p>◆『市民』 市内に在住、在勤若しくは在学をする個人、市内に事業所を置く事業者又は市内で活動する団体</p> <p>◆『自治会』 一定の区域内の住民等で構成された、地域住民等の福祉や振興の向上のため、活動する組織</p> <p>◆『特定非営利活動法人(NPO法人)』 専門性を有し社会的課題の解決に取り組む、営利を目的としない公益な活動を行う団体</p> <p>◆『学校等』 小・中・高校及び大学</p> <p>◆『市民公益活動団体』 市民が自主的に、地域課題又は社会的課題の解決に取り組む、営利を目的としない公益な活動を行う団体</p> <p>◆『事業者・企業等』 営利を目的として事業を行う個人経営、法人経営等の企業</p> <p>◆『議会』 市民から選出された市民を代表する議員で構成され、行政が実施するサービスについて審議等を行う組織</p> <p>◆『行政』 阪南市役所及び阪南市の地域社会に関する公共機関</p>



※中間支援組織・・・組織が持つノウハウやネットワーク情報などを活用し、市民と市民、市民と行政等の間に立って、中立的な立場から適切なコーディネートを行う組織。 具体例：市民活動センター、社会福祉協議会など

再検討項目	第5章 協働を進める取り組み
部会での議論	・SNS の取り扱いは検討の余地あり。
推進委員会の意見	<p>・SNS という言葉は、当たり前の言葉となりつつあるが、中には難しいという方もおられるため、説明が必要。</p> <p>・SNS の後ろに LINE や FaceBook など記載すれば分かりやすい。</p> <p>・本文中に詳細を表記すると読みにくいため、欄外に注釈として記載しては。</p>
推進委員会の意見を踏まえた修正	<p>◆知っていることや得意なことを発揮する(してもら)場を作っていこう。 自身や周りの人たちが経験やノウハウを生かしてさまざまな活動を行ったり、また、参加しやすくするためには、それを発揮できる環境作りが大切です。 例:消防職員のOBが自治会の防災講座で講師を務めた。 子ども会のイベントで団体にマジックを披露してもらった。</p> <p>◆最大の情報発信の手段の一つである口コミを広げよう。 自分の周りへ情報を発信することにより、そこから更に人から人へ情報が広がっていきます。まずは対話を始めることからスタートです。 例:面白そうなイベントに一緒に行こうと知人を誘った。 認知症予防講座で自分が学んだことを知人にも伝えた。</p> <p>◆広く情報発信・収集を行っていくため、SNS*を活用していこう。 いつでもどこでも最新の情報を、一度に多くの人に伝えることができるSNS。使い方を知りどんどん活用して慣れると、情報発信力が伸びていきます。 例:FaceBook に団体のイベント開催情報を掲載した。 LINE 使って次の企画の打ち合わせを行った。</p> <p>◆課題解決に向け気軽に相談できる場所を、伝えていこう。知ってもらおう。 いつでも相談できる場所を多くの人に知ってもらうことで、誰でも気軽に利用でき、困っていることを抱え込まない環境が生まれます。それが課題解決の糸口につながります。 例:ボランティアなど新たに活動を始めたい人に社会福祉協議会を紹介した。 活動の中で困っている友人と市民活動センターを訪れた。</p> <p>◆活動を行いたい人を手助けする仕組みや行いやすい環境を作っていこう。 これから活動をしようとしている人や今、活動を行っている人が新たな取り組みを行うとき、活動を応援する仕組みや環境があることで、多くの協働が生まれやすくなります。 例:モーニングカフェを開催したい団体に空き家を貸した。 新たな活動を行う人にみんなで応援・手助けした。</p> <p>◆阪南市のまちづくりをみんなが我が事として捉えていこう。 まちづくりは、行政だけで担えるものでなく、市民等だけでも出来ないため、他人事と思わず、一人ひとりが協働の担い手となる事が大切です。 例:近所の人たちに挨拶をしている。 週に一度、家の前を掃除している。</p>

※SNS・・・Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略で、ソーシャル(社会的な)ネットワーキング(繋がり・交流)を提供するサービス。